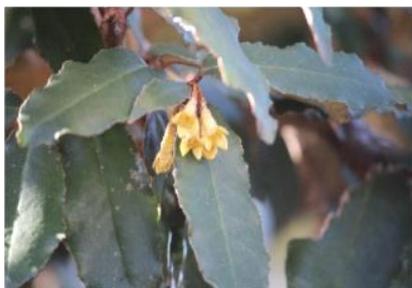


薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2021年
12月6日
第126号

ナワシログミ (グミ科)

園内、植物自生区、ラクウショウの大木の並びで、裏面が褐色の鱗片に覆われるという特徴のある葉の間から、白い花が垂れ下がっているのが見られます。関東以西の山野に生える常緑低木で、生垣や庭木として植栽されています。来年の苗代を作る初夏に実が赤く熟し食べごろになります。果実が生薬の胡頹子（コタイシ）となり、収斂止瀉、健脾消食、止咳平喘、止血を目的に、葉が生薬の胡頹子葉（コタイシヨウ）となり、内用で喘息、咳血、癰疽に、外用で外傷、出血に対して、根を胡頹子根（コタイシコン）となり、喘息、吐血、便血、月経過多、関節痛、黄痘、下痢、小児癰癩、咽喉腫痛に対して、使用されます。

センリョウ (センリョウ科)

園内、資材庫へ向かう通路の温室近くで、葉の上に鮮やかな赤い果実を沢山付け、色の少ない林の縁で美しく目立っています。本州中部以南に生える常緑低木で、「かわら版」31号で紹介したサクラソウ科のマンリョウ（万両）とともに、正月の生け花、寄せ植えなどに縁起物として使用されます。夏には黄緑色の小さな花を付けますが、目立ちません。枝葉が生薬の草珊瑚（クササンゴ）となり、清熱解毒、祛風除湿、活血止痛を目的に、胃腸炎、打ち身、リュウマチ、関節痛等に用います。葉を茶外茶として利用する地方もあるそうです。

温室では、**ハイビスカスの花**
ややくウカ（夜香花）が見られますよ！！！！